

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年6月13日

BMJ:戦争避難者に対するケア：ウクライナの避難民に対してポーランドの医療システムはどのように対処しているか

【松崎雑感】

ポーランドのプライマリーケア医（家庭医）グループからの投稿です。ポーランドの人口は3800万人近くで、日本の3分の1です。そこに400万人のウクライナからの避難民が来ています。日本で言えば、1200万人の避難民が来ていることになります（！）。投稿された医師は、淡々と治療、新型コロナの予防接種の必要性を述べられられますが、1人あたり年間200万円の援助が必要とすると、年間8兆円が必要です。ポーランドのGDPは日本より一桁近く低いのですから、日本に置き換えるなら数十兆円の超過支出となると思います。戦争のコストの膨大さは言うまでもなく、それを国として引き受けるウクライナ周辺国の度量の大きさに心を打たれるのですが…。

松崎道幸 道北勤医協ながやま医院 matsuzaki-m@dohoku-kinikyoo.or.jp

戦争避難者に対するケア：ウクライナの避難民に対してポーランドの医療システムはどのように対処しているか

Babicki M (Department of Family Medicine, Wroclaw Medical University, Poland) , Mastalerz-Migas A. **Providing care for those fleeing war: challenges and solutions for Polish doctors looking after refugees from Ukraine.** *BMJ.* 2022;377:o1440. Published 2022 Jun 10. doi:10.1136/bmj.o1440

ウクライナにおける戦争は、21世紀最大のヨーロッパにおける難民を作り出した。国連難民高等弁務官事務所によれば、700万人が国外に避難し、そのうち400万人はポーランドに逃れた[1]。

ポーランド議会は3月1日にウクライナからの避難民にポーランド国民と同様に、無料の医療提供、薬剤と医療用品の費の償還を行う特別法を成立させた[2]。

ポーランドはヨーロッパでも人口当たりの医師数が最も少ない国のひとつであるため[3]、避難者に対する医療サービス提供は、医療資源と医療スタッフに重圧となることが予想される。

避難民の多くは女性と子ども、高齢の人々であり、医療ケアの必要性は高い。これらの人々はまずプライマリ・ケア医を受診することがほとんどである。

ポーランド家庭医学会メンバーからの情報では、ウクライナからの避難民は急性感染症で受診することが多いという。

とりわけ子どもたちは、感冒などの感染症、脱水症、栄養不足などで緊急的医療ケアを必要とする場合が多い。

さらに、もともと慢性疾患を持ち、継続的な治療とフォローが必要な人々も少なくない。

避難民に医療ケアを施す場合の課題は山積している。特にこれまでの医療記録がなく、慢性疾患の継続的治療を的確に行う上で大きな障害となっている。

また保険給付薬品の処方に関しても法的問題がある。ポーランドの法律では、医療記録により診断された証拠がなければ処方できないことになっている。

避難民がそのような記録を持っているわけがない。したがって、新たにいろいろな検査を行い診断を確定しなければ、ポーランドの医師が保険給付の可能な薬剤を処方することができないことになる。

このプロセスを経ないで保険給付薬を処方した場合、医師は罰金を払わなければならない。

この問題を解決するためには、避難民の自己申告があればよいという特例法制を作る必要がある。

避難民には精神疾患を抱える者が多いという報告もなされている。戦乱の中で、うつ、不安、PTSDを抱える人々が多い。

ポーランドは、ヨーロッパの中でも精神医療スタッフと医療資源が極めて不足しており、特に子どもと若者の精神的問題を取り扱う専門家が不足している。

医師の中央登録簿によれば、ポーランドの小児精神疾患専門医は小児1万5千人につき一人しかいない。

これは1万人につきひとりという基準よりずっと少ない[4]。成人の精神医療についても、事情はそれほど変わらない[5]。

2018年に18歳以上のポーランド国民10万人あたり9.2人の精神科医しか存在しない[6]。

精神科医療不足を緩和するには、国外の専門医とのリモート診療を行うという手段がある。

心理学者と心理療法士が軽症のうつや不安障害患者を診ることで、非薬物的治療資源を増やすことができる。

避難民に対する医療ケアで重要なことは、本国で受けることのできたはずの小児定期検診や予防接種を継続することである。

ウクライナの結核、ポリオ、麻疹に対する予防接種率はヨーロッパでも最低であり、避難民の予防接種歴を早くして適切な接種勧奨を行うことが重要である[7]。

小児に対する予防接種を躊躇する傾向が強いポーランドにおいては、結核、ポリオ、麻疹などの地域的流行を防ぐうえでも重要である[8]。

ウクライナからの避難民に新型コロナワクチン接種の必要性を説明し、接種を推進することは、新型コロナ流行を防ぐうえで重要である。

ポーランドでは、避難民に対する新型コロナワクチン接種は無料である。

新型コロナワクチン接種の必要性を説明して、実施する仕事は、おもに家庭医の役割である。登録作業に問題はないが、避難民のワクチン接種率は低いままである。

ポーランド政府は、避難民が安心して新型コロナワクチンを受けられるように的を絞ったキャンペーンを行うべきである。

言葉の壁もまた大きな障害となっている。避難民はウクライナ語かロシア語を話すことがおおいが、ポーランドではこれらの言葉のわかる人々が多くはない。

医療機関受診時の通訳システムが整備されていないため、多くの場合、ボランティアが無料でその役割を果たしている。

しかし、長期的には、国がこのシステムを整備すべきである。ポーランドでは、すべての医療施設に1人以上の通訳者を配置できる人的資源がないため、リモートで通訳のできるシステムを整備する必要があるだろう。

病院も家庭医もこれによって、大きな負担を免れることができるだろう。

避難民には医師や看護師などのヘルスケアワーカーが含まれており、彼らをポーランドの医療施設で働いてもらうことも、問題解決を促進するだろう。

ポーランド保健省は、彼らの就労手続きを簡素化して就労を促進する改革を行っている。

今年2月24日から4月12日までにウクライナの医師70名がポーランドで仕事に就いている[9]。彼らに対するポーランド語講習も行われている。

多くの避難民は、ウクライナの騒乱が終了したなら、本国に帰るだろうが、それまでは、避難民に対する社会保障と医療ケアを継続する必要がある。

ポーランド政府が、避難民の生活や医療を保証するために努力する必要があることは言うまでもないが、ヨーロッパ連合、国連、WHOなどが、財政的、物質的援助を一層強めることが必要である。